

Osaka City University
第9回 南瀨会合唱団演奏会

1992. 10. 3 (土) PM. 6:00

近鉄小劇場





1992年6月7日 大阪国際交流センター大ホール

ご挨拶

本日は、ようこそご来場くださりまして、まことにありがとうございます。

昭和55年以降、私たち南濤会合唱団が隔年毎に定例化してまいりました演奏会が、ここに通算第9回を迎えるに至りました。これもひとえに、母校・大阪市立大学歴代の学長先生、商大グリー時代以来の恩師・加藤直四郎先生をはじめ、ご関係の皆様方ならびに団の母体・南濤会会員各位から寄せられた温かいご支援、ご指導の賜物と、心から深く感謝申し上げます。

今回は、お馴染みのミュージカルの名曲集、ブラームスの哀感を帯びた「アルト・ラブソディー」、荒く厳しい風雪の中で生きる海鳥の姿を表現した組曲「海鳥の詩」を選曲しました。「ラブソディー」では、関西歌劇団のアルト歌手・福田かおりさんに独唱をお願いし、男声合唱の重厚なハーモニーで盛り上げます。

賛助出演していただく僚友・みおぎ会の皆様方が、今回も、松平季子先生の指揮、岡本佐紀子さんのピアノで、楽しい曲を歌って、彩りを添えてくださいます。そして混声合唱で、ミサ曲の名曲といわれる、グノーの「聖チェチリア」から「クレード」を歌います。みおぎ会の皆様方の、いつに変わらぬ友情に、謝意を表します。

大学のグリーOBで合唱団活動を続けるには、いくつもの困難な条件を克服しなければなりません。とりわけメンバーの拡充、その固定化といった悩みは、OB合唱団のいづこもが抱える宿命とさえいわれます。それでも私たちは、男声合唱の力感あふれる響きをいつまでも追い求め、その魅力と感動に取り憑かれています。

日頃の努力の成果が、どれほど発揮できますか、どうか。練習不足は言い訳になりませんが、本番に強いと自惚れる(?)度胸と意気込みで、頑張りたいと思います。

ご来聴、ご声援に厚く御礼申し上げ、今後とも一層のご支援を賜りますようお願いして、ご挨拶といたします。

南濤会合唱団 団長 上田 稔

MESSAGE

大阪市立大学長
山本 研二郎

南濤会合唱団第9回演奏会の開催を、心からお喜び申し上げます。

50年をこえる伝統を有する南濤会が、本学の創立100周年を契機として、合唱団の演奏会を隔年で開かれるようになってから、7回目を迎えました。OB活動の常として、多忙な方々が練習の機会を持たれるのは、大変なことです。南濤会の皆様のご努力には、深く敬服するところであります。

また、毎回の選曲につきましても、世代をこえて多くの人を楽しめるように工夫されており、関係者の方々の熱意がうかがわれるところです。

歌は、人の心を一つに結ぶ架け橋であり、今年の演奏会も、聴衆と一体となった、素晴らしいものとなることを、期待いたします。

関西合唱連盟
最高顧問
加藤 直四郎

第9回の演奏会、おめでとうございます。

お互いに忙しい勤めの中から時間を見出して、合唱団に駆けつける無理さの中にも、そこには明るさと楽しさがあり、それらが心を弾ませるような、人間の生き甲斐にも繋がっているのだと思うとき、合唱団の発展は、楽しみ域を超えて、人の心の育成にも役立つものと思われれます。

今、世間の不況のせい、合唱団も伸び悩んでいるようですが、その中で南濤会は、人数こそ多い方ではないが、そのために、却ってお互いの励ましによる意欲的な練習に支えられて、内面的に深められつつあることを、誠に力強く思います。

南濤会は、毎回の傾向として、合唱音楽の基本であるルネッサンス時代の教会音楽を取り入れて、高度なポリフォニックの研究を続けて来られましたが、プログラムを拝見しますと、今回は、やや方向を変えて、ブラームスの「アルト・ラブソディー」、そして、広瀬量平の「海鳥の詩」など、内外共に最高レベルの名曲を取り入れられた点に、強い意欲を感じますと共に、一方、ミュージカルの名曲などを配して、聴衆を楽しませる心遣いも感じられ、大へん好感が持てます。また、本日、賛助出演の「みおぎ会」との合同で歌われる、グノー作曲の「チェチリア・ミサ」の「クレード」も、美しい、待望の曲です。

世の中が忙しくなって、心も荒び勝ちな中で、南濤会の方々が、心温かに音楽の美に触れ、情熱を燃やして前進しておられる姿を、誠に尊く思います。

どうか、本日の演奏会が成功裡に終わりますよう、そして、次の10回目に向かって、一段の躍進を遂げられますことを、心から期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

ANCORの会
本年度幹事団体
コール・アカデミー関西OB会
中村 充 男

街を歩きながら、または電車の吊革につかまって、頭の中が、半ば空っぽの状態のとき、無意識に口ずさんでしまうのが、ドイツ民謡、あるいは邦人合唱曲、さらには、ミサやレクイエムなど宗教曲の一節……。学生時代に、いやと言うほど歌い込んだ曲の数々が、まだ、脳細胞の相当な部分を占めている。——この現象は、いわゆる男声OB合唱団のメンバーの、多くの人に見られるはずである。

男声合唱の魔力から未だに解放されず、集まっては、2～3時間の練習をし、さらに、同じくらいの時間をかけて、酒を酌み交わす。この積み重ねの成果の発表の場としての演奏会を、定期的に持たれている南濤会合唱団は、文句なしに立派である。

今夕のご盛会と、演奏のご成功を、お祈りしたい。

曲目解説

「懐かしのミュージカル」名曲集

I LOVE PARIS

1896年、パリのカンカン踊り禁止令の是非を題材とした、コール・ポーター作曲のミュージカル『カン・カン』のテーマ曲（1959年初演）。

OKLAHOMA

1943年3月から1948年5月まで、5年2カ月にわたって、2248回のロングラン公演を記録した、ロジャース&ハマースティンII世のミュージカル『オクラホマ』の題名曲。この曲は、その後、オクラホマ州の正式州歌となっている。

OL' MAN RIVER

当時、ウィーンのおペレッタ風の作品が主流のブロードウェイ・ミュージカルを、人種問題などシリアスな題材を取り入れて、現代風ミュージカルとして大ヒットさせたミュージカル史上永遠の傑作『ショウボート』から、黒人水夫が歌ったもの。この作品随一の佳曲（1927年初演）。

SOUND OF MUSIC/DO-RE-MI

『オクラホマ』『回転木馬』『南太平洋』など、数々の傑作を発表したロジャース&ハマースティンII世の名コンビの、最後の作品となった『サウンド・オブ・ミュージック』の題名曲と、有名な「ドレミの歌」（1959年初演）。

『アルト・ラブソディ』Op. 53

ブラームスの『アルト・ラブソディ』は、詩聖ゲーテの『冬のハルツ紀行』にもとづき、アルト独唱、男声合唱、管弦楽（ピアノ）という構成で作曲されたものである。

ブラームスは、原詩に表現された罪障ふかい人間の永遠の悩みを歌ったのであるが、この「ラブソディ」は、ゲーテの原詩全部に付曲したのではなく、この詩集の核心ともいべき第5・6・7節に、曲の第1・2・3部として付曲したものである。

第1部と第2部では、アルト独唱で、世をうらみ、人をののしり、自分を蔑む青年プレッシングをめぐる情緒を表わし、第3部では、男声合唱が加わり、自己の苦悶に対する救済の祈りを表現している。

男声合唱組曲『海鳥の詩』

この曲は、昭和52年（1977）、NHK北海道本部の委嘱により混声合唱組曲として作曲され、その年の芸術祭合唱部門の優秀賞を得た作品である。

初演のときは、三つの楽章であったが、昭和54年（1979）出版に際し、さらに終楽章に当る「北の海鳥」を加え、4楽章の組曲となった。それ以来、数多くの団体によって歌われてきたが、昭和56年（1981）、作曲者により男声合唱に編曲された。

詩は、北海道在住の詩人・更科源蔵の、昭和27年（1952）出版の詩集「無明」の中から「オロロン鳥」と「海鷲」がとられ、新たに「エトピリカ」と「北の海鳥」の二篇が加えられた。

作者は、「暗くわびしい日本の運命的な時代（戦中から戦後）を生きた私自らの姿を、荒きびしい風土の中で生きる北の海鳥の姿に託してうたった」という。風や吹雪や氷雪の世界を愛するかのようによしく生きている鳥たちの姿が描かれている。

第1曲「オロロン鳥」……断崖の岩の上にとまり、黙々と海を見るオロロン鳥、孤独な漂泊の思いと彼方へのあこがれ。

第2曲「エトピリカ」……霧の中をまっしぐらに飛ぶ不思議な鳥エトピリカ。その狂熱的なひたむきさ。りんりんと風は鳴り、今もまた、エトピリカは一心不乱に飛翔する。

第3曲「海鷲」……じつとうずくまる海鷲、あおく冷たくうねる寒流は磯に砕けて、その流れは行方もしれない。鷲は風や潮騒の音をきいているのだろうか。

第4曲「北の海鳥」……きらめく北の海を飛ぶ海鳥たち。風雪をものともせず、生と死のゆれ動くさなかを、力一杯に飛ぶ海鳥たちへの讃歌。この組曲の終曲である。

（カワイ合唱文庫『海鳥の詩』の解説から抜粋）

* * *

『聖チェチリア・荘厳ミサ曲』から「クレード」

1851年、ロンドンで一部演奏された「荘厳ミサ曲」の他の部分を書き加え、1855年に、このミサ曲が完成されたが、サン＝サーンスは、この曲を、「19世紀後半のフランス音楽の代表作である」と激賞している。

第3曲「クレード」では、グノーが自ら信仰の告白を音楽の上のせ、次第に増大する構成のうちに、不滅の神の偉大さを立証している。

なお、「聖チェチリア」は、音楽の守護神で、ローマ殉教者の聖女の中で、最も有名な一人である。

PROFILE

福田かおり



大阪音楽大学大学院オペラ科終了。足立勝、山村美智子の各氏に師事。オペラ『カルメン』のタイトルロール、『蝶々夫人』のスズキ、『フィガロの結婚』のケルビーノ役等に出演。大阪フィルハーモニー交響楽団と共演のほか、各種演奏会に多数出演。また、ミサ曲のアルト・ソリストとしても活躍。なわ芸術祭新人奨励賞受賞。飯塚新人コンクール本選入賞。現在、大阪音楽大学声楽非常勤講師、関西歌劇団団員、創作オペラの会「葦」会員。

谷岡理恵



相愛大学音楽学部ピアノ専攻科卒業。同大学研究科修了。故宮越精三郎、向井滋子、沢村千栄子、練木繁夫の各氏に師事。諸コンサートに出演。第2回日本現代音楽ピアノ・コンクールに入選。NHK洋楽オーディションに合格。NHK-FM土曜リサイタルに出演。なわ芸術祭新人奨励賞受賞。昭和57年から、南漣会合唱団の伴奏をつとめる。（南漣会合唱団・谷岡昇の長女）

南漣会・南漣会合唱団

「南漣会」は、旧制の大阪高商から大阪商大の時代を経て、現在の大阪市大グリークラブのOB全員で組織している団体です。大阪市大グリークラブは、旧制時代から数えて67年の歴史と伝統を有する学内でも屈指のクラブですが、南漣会もまた、昭和15年（1940）に設立され、50有余年の歴史を誇っています。

南漣会では、創立時に第1回演奏会が開かれ、その後昭和30年（1955）頃から現役グリークラブ定期演奏会への賛助出演、昭和39年（1964）に第2回演奏会の開催など、会員有志の心のハーモニーを通じて、男声合唱の灯を保ち続けて来ました。

このような経過を経て、昭和55年（1980）に母校が建学百周年を迎えるのを契機に、その前年、南漣会組織の結束を図り、それを母体とする「南漣会合唱団」が再編されました。昭和55年（1980）3月8日、十数年ぶりに演奏会を復活し、それ以来、積極的に活動を続け、メンバーの熱意と努力により、定期演奏会の隔年開催を定着させ、今日に至っています。

そのほか、定例の行事として昭和56年（1981）から毎年開催される『五つのOB男声合唱の集い』（京都大・大阪市大・東京大・大阪大・神戸大の各OBによる「ANCORの会」）をはじめ、その他、友好団体のステージへの賛助出演等に参加しています。

当合唱団も、ご他聞にもれず、転勤や仕事の都合などのため、メンバーの固定化が困難な実情の中で、とくにパートバランスの均等化が悩みです。しかし、男声合唱に魅力を感じるメンバーの一人ひとりが、情熱と意欲をもって、合唱音楽に対する感性を磨き、今後も歌い続けていきたいと、願っています。

なお、下記にご案内のように、市大グリーOB以外の方でも、入団を歓迎しておりますので、よろしく願いいたします。

団員募集

- 南漣会合唱団では、活動を一層充実、発展させることを念願して、大阪市大グリーOBのメンバーに限らず、男声合唱を愛好される一般の皆様にも、広く門戸を開放しています。
- ご一緒に楽しく歌って、男声合唱の醍醐味を、味わってみられませんか。*年齢・経験は問いません。*練習は通常、月2回、日曜日の午後、または土曜日の晩に行っています。
- ご入団を心から歓迎します。お知り合いの団員、または上記「連絡先」まで、ご遠慮なく、入団歓迎！お申し出てください。お待ちいたしております。

団長	上田 稔
総務	石井 欽三
幹事長	桂 貞夫
副幹事長	横田 卓郎
幹事（ANCORの会担当）	谷岡 昇
会計	齋藤 三朗
	大田 徳隆
指揮者	今西 弘一
	小関 光男

連絡先	上田 稔
TEL.	(06)536-5227
FAX.	(06)536-7545

★南漣会合唱団 今後の予定★

「中川泰治 南漣会会長
第7回コンサート」（賛助出演）
1992.10.23（金）P.M.6:00
今橋・大阪倶楽部

「第13回五つのOB男声合唱の集い」
1993.6.6（日）P.M.2:00
大阪国際交流センター大ホール

PROFILE

松平季子

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。同専攻科修了。斎木幸子氏、木村絹子氏に師事。ミュンヘンに留学、ローレフィッシャ氏に師事。1983年、J・シュトラウスのオペレッタ『こうもり』の主演ロザリンドを演じ、オペレッタ歌手としてデビュー。その優れた歌唱、演技力が認められ、毎年上演される『こうもり』の公演には、欠かせないロザリンド役として評価される。オペレッタのレパートリーは広く、『メリー・ウイドウ』のハンナ、『ジプシー男爵』のザッフィー、『マリツァ伯爵夫人』のマリツァなど、多くのヒロインを演じ、オペレッタ歌手として高評を受けている。



1982年から、「みおぎ会」の指揮者として指導を続け、数多くの舞台を「みおぎ会」と共に歩み、活躍を続けている。
日本演奏連盟会員。喜歌劇楽友協会会員。

岡本佐紀子

大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻科卒業。永井淳子氏に師事。卒業後、オペラ伴奏者としての研鑽を積み、現在、関西歌劇団、大阪音楽大学オペラハウス専属ピアニストとして活躍中。また、管弦打楽器、歌曲、オペラなど多くのリサイタルの伴奏をつとめ、幅広く活躍するほか、ソリストとしても積極的に活動を続けている。「みおぎ会」の伴奏ピアニスト。



みおぎ会

「みおぎ会」というのは、大阪市立大学女声合唱団のOGグループで、大阪市章の「滯標(みおつくし)」の名に由来しています。昭和27年に、市大女声合唱団が誕生して以来、15年間は活動していましたが、昭和42年、部員不足で現役は消滅してしまいました。

しかし、その15年間の「きずな」は、すばらしい同窓集団「みおぎ会」となって、今日に至っています。メンバーのほとんどは、仕事を持ちながら、若返ることのない、みおぎ会での活動を通じて、人生のロマンと歌のロマンを求め、歌い続けています。

このような「みおぎ会」に、喜歌劇楽友協会のプリマドンナ・松平季子先生を指揮者にお迎えするようになって、はや11年になります。美しい先生のお声に合わせて口を開いていると、その時だけ何となく、私たちも同じ声が出ている錯覚におちいるのです。また、すばらしい伴奏者にも恵まれ、彼女の細かい手から出る力強いタッチ、柔軟な音に、しばし聴き惚れ、歌うのを忘れることさえあります。

こうした、よき指導者のもとで、昭和62年11月に第1回、そして、今年6月には第2回のリサイタルを開くことができました。またその間、平成元年には、シンガポールへ念願の海外演奏旅行を行い、現地駐在員の女声合唱団と交歓演奏会を持ちました。南濠会会長・中川泰治氏にもその際ご同行いただき、ソロをお願いしたことは、今もって感謝しております。

南濠会とは、いわば兄妹の関係で、ご縁が深く、これまでも南濠会合唱団のリサイタルに度々出演させていただいてまいりました。とくに「みおぎ会」独自でリサイタルを持つようになるまで、私たちにステージの機会を与えてくださったご好意は、忘れ得ません。

これから第3回リサイタルに向かって練習を重ねて行くつもりですが、指揮者の松平先生は、今回のステージのあと、1年間ヨーロッパに留学されます。この間、みおぎ会は、いかに歌い続けるか、大きな課題を抱えています。どうか、今後とも、温かいご声援をいただきますよう、お願いいたします。

司会

白石公子さんに、今回も司会の役を、お願いしました。あれこれと注文しなくても、私たちの意図するツボを的確に心得ていただき、流暢な語り口で進行をつとめてくださいます。

毎回のご協力の、厚く御礼申し上げます。

神戸市出身。大阪市立大学生活科学部社会福祉学科卒業。現在、フリー。

表紙絵

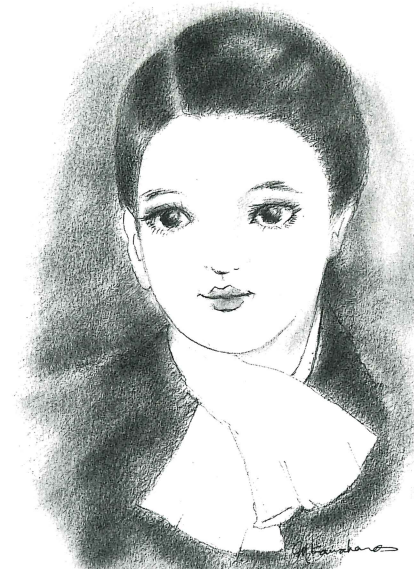
河原碧子先生の、幻想的で、カラフルな美しい表紙絵も、すっかりお馴染みになり、ご無理をお願いし、今回も新しく絵筆をとっていただきました。貴重な冊子が、また一つ増えました。ご好意に、深く感謝いたします。

大阪市立大学家政学部住居学科卒業。

日本画家。河原デザインスクール理事長。

OB・OG?

いえいえ人生の現役です



名簿を開くと、どの頁からも、力強い鼓動が聞こえます。友の、恩師の、先輩の、まだ見ぬ後輩の、そして大学自体の鼓動が。活字の中から、あの頃の風、あの時のときめきが湧きあがります。あの風を、あのときめきをきっと今の学生も感じているはずですよ。

機会を見つけて大学へ行きませんか。学校へ行きませんか。

本を持たずに、ノートを持たずに。軽やかに自分だけを持って。そうして雰囲気味わって。そうして卒業生の雰囲気を学校に分け与えて。私たちみんなで見守って、育て、大切にしたい学校です—大阪市立大学

グラフィックデザイン・インテリアデザイン
カラーコーディネーター・彫金工芸デザイン
(本科=2年制(昼間部・夜間部)/他に1年制専科・通信科設置)

プロを育てる名門校
河原デザインスクール
SINCE 1962

大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞ビル〔〒530〕
TEL(06)203-4754(代表)/FAX(06)226-0730

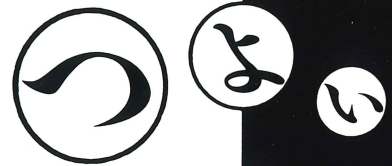
KAWAHARA DESIGN SCHOOL

超耐久性屋根材

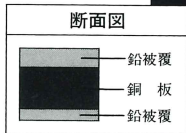
鉛被覆銅板 ※タフ・カバーは銅板に鉛を被覆した屋根材です。

タフ・カバー

アメリカから今、
日本上陸!



酸性雨に



タフ・カバー
TOUGH COPPER
鉛被覆銅板
米国工業規格ASTM B101 建築材料

新登場

輸入総発売元

山内金属株式会社

本社 / 〒550 大阪市西区北堀江3丁目8番6号
TEL (06)532-7001代 FAX (06)532-7009
東京出張所 / 〒110 東京都台東区上野公園18番8号G・P・M305
TEL (03)3823-4858 FAX (03)3823-4586

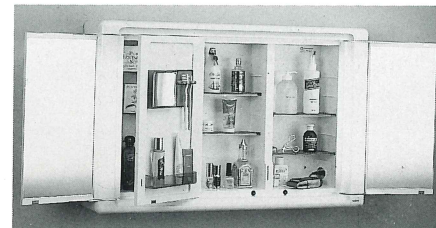
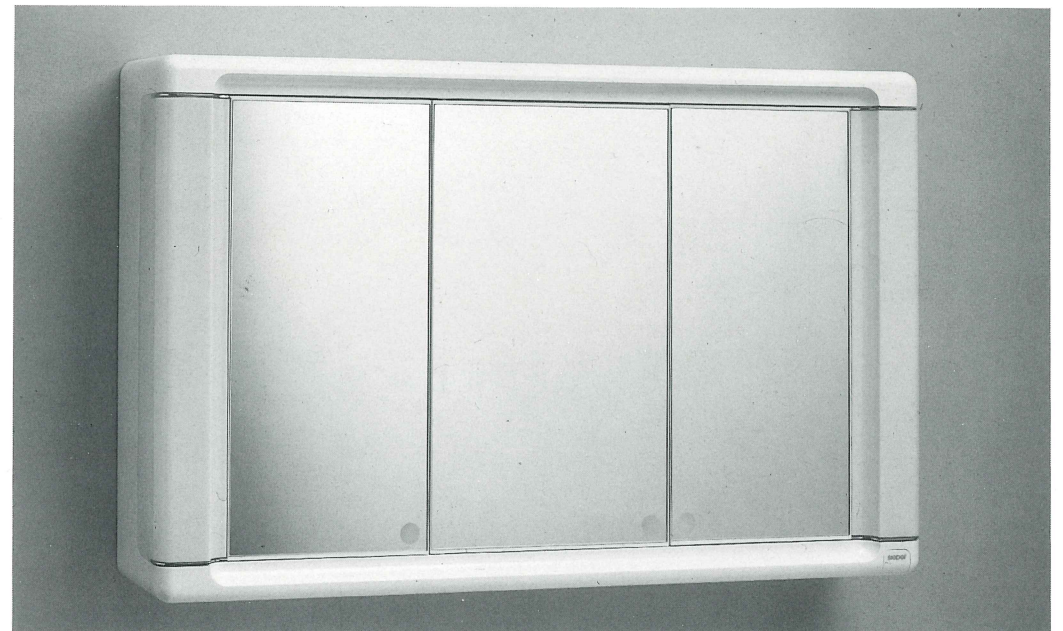
住空間へのプレゼンテーション。

名曲のように、日本人の暮らしに溶けこんだロングセラー。

RP東プラは、プラスチックを通じて、
快適な住空間をお届けしています。

TOPLA

ウォールキャビネット®



機能性を追求しながら、すっきりしたデザイン
TOPLAウォールキャビネットシリーズ。
たっぷりの収納力を誇るキャビネット、マグネット
キャッチでスムーズに、しかもワイドに開閉できる、
きめ細やかな親切設計。

ブライトリー・ナイト
イン

白いピアノと花いっぱいの
ロマンチック・ラウンジ
トレンドイコエコースティック・サウンドで
今宵も主役は“あなた”です。

ミュージック・ラウンジ **ロココ**
大阪市中央区西心斎橋2-1-18 ニタヤビル2F

☎ (06) 213-9011・7602



アールピー
RP東プラ株式会社

本社 〒532 大阪市淀川区宮原4丁目1番4号(新大阪センタービル2F) TEL.06-394-6411(代表)
東京営業所 〒104 東京都中央区八重洲2丁目10番8号(八重洲ビル3F) TEL.03-3274-5851(代表)
大阪営業所 〒532 大阪市淀川区宮原4丁目1番4号(新大阪センタービル2F) TEL.06-394-2611(代表)